

D117 英語と英米文化	
英名科目名	
大学名	佛教大学
連絡先	学生支援課 TEL 075-491-2141(代)
担当教員	稲永 知世(英米学科 准教授)
開講期間	2021年09月20日(月)~2022年02月10日(木) 5講時 16時10分~17時40分(毎週月曜日) 最終週は定期試験週 なお、以下の日程は授業日ではありませんので注意してください。 2021年9月23日(木・祝) 秋分の日 2021年11月1日(月)~11月3日(水) 学園祭開催の為 2021年11月23日(火)~11月25日(木) 公募制推薦入試の為 2021年12月24日(金)~2022年1月7日(金) 年末年始休暇の為 2022年1月10日(月・祝) 成人の日 2022年1月14日(金) 大学入学共通テスト準備の為 2022年2月1日(火)~2月3日(木) 一般入試A日程の為
開講形態	後期・秋学期 開講曜日・講時 月曜日 5講時
単位数	2 履修年次 1年次以上
会場	紫野キャンパス
授業定員	
単位互換生定員	10 京カレッジ生定員
試験・評価方法	成績評価の基準 ・定期試験(教室)50 英語と英米文化に関する試験(100点満点)の点数に基づいて評価する。 ・授業内試験20 毎回授業開始時に実施する確認テストの結果に基づいて評価する。 ・授業内課題30 各单元ごとに配布するプリントの実践度合いに基づいて評価する。
超過時の選考方法	書類選考
受講料	
別途負担費用	
その他特記事項	
パッケージ科目	多文化コミュニケーション
低回数受講推奨科目	
講義概要・到達目標	<p>授業のテーマ 英語に対する関心を高め、英米文化に対する理解を言語を通じたアプローチによって深める。</p> <p>授業の概要 英語は多くの学生にとって中学校および高等学校で既習の言語であるが、言語として英語を知れば足りるものではなく、その言語の生み出した文化の学習も不可欠である。「英語と英米文化」は、英米文化に対する理解を言語を通じたアプローチによって深め、かつその言語に関心を高め、学習を動機づけることをめざす。この授業では、既習の知識と比較しつつ、中・高では学ばない英語の知識について文字、発音、文法、語彙、表現等の面から解説し、英語の新しい側面を学習する。英米文化に関しては、その歴史と現在の姿をさまざまな資料やDVDに基づき紹介する。</p> <p>授業の目的・ねらい (1) 中学校および高等学校では習わない英語に関する知識(歴史、音声・音韻、形態、文法、意味、言語使用)を教授することにより、英語に対する関心を高める。また、英語に対する単一主義的・規範主義的な志向から離れて、英語に対する学習者の視野を広げることとする。 (2) 英米文化に関する歴史と現在の姿に関する知識を教授すること</p>

とにより、英米文化に対する理解を深める。とりわけ、政治、ビジネスと経済、ジェンダー、メディアについて言及する。

到達目標

(1) 英語に関する知識(歴史、音声・音韻、形態、文法、意味、言語使用)を深めることにより、英語に対して多元的なものの見方をすることができるようになる。

(2) 言語を通じたアプローチによって、英米文化(政治、ビジネスと経済、ジェンダー、メディア)に対する理解が深まっている。

授業時間外の学修(予習・復習等)についての具体的な指示

(1) 毎回授業開始時に確認テストを行う。

(2) 指定した範囲の予習、及び復習を必ず行うこと。

受講にあたっての留意事項

授業には必ず辞書を持参すること(電子辞書よりも紙媒体の辞書を推奨)。

携帯電話での単語の意味検索は認めない。

講義スケジュール

毎回の授業のテーマ・内容

第1回

ガイダンス - 授業のねらいと方針 -

【英語と英米文化 イントロダクション】

・イギリス英語(British English)およびアメリカ英語(American English)

・その他の英語変種(カナダ英語、オーストラリア英語、ニュージーランド英語等)

・グレートブリテン(イングランド(England)、スコットランド(Scotland)、ウェールズ(Wales))、及び北アイルランド(Northern Ireland)から成る英国

・50州(北アメリカ大陸中央部48州およびアラスカ州とハワイ州の2州)と1首都地区(コロンビア特別区District of Columbia)から成る連邦制共和国のアメリカ

第2回

【英米文化 英米社会における政治(1)】

・イギリスの議院内閣制(parliamentary cabinet

system)と2人の女性首相

映画『The Iron Lady(邦題:マーガレット・サッチャー鉄の女の涙)』を見る。

第3回

【英米文化 英米社会における政治(2)】

映画『The Iron Lady(邦題:マーガレット・サッチャー鉄の女の涙)』を見る。

・アメリカ大統領選挙と選挙の争点(社会保障制度、銃規制、中絶etc.)

第4回

【英米文化 英米社会におけるジェンダー問題(1)】

・イギリスの20世紀初頭における女性参政権運動、および現代のイギリス人女性

映画『Suffragette(邦題:未来を花束にして)』を見る。

第5回

【英米文化 英米社会におけるジェンダー問題(2)】

映画『Suffragette(邦題:未来を花束にして)』を見る。

・アメリカにおけるフェミニズム運動、およびワインスタイン効果(Weinstein effect)と“Me Too”運動

第6回

【英米文化 英米社会にビジネスと経済(1)】

・イギリスとEU Brexit(EU離脱)について考える

ドラマ『Brexit(邦題:ブレグジット EU離脱)』を見る。

第7回

【英米文化 英米社会にビジネスと経済(2)】

ドラマ『Brexit(邦題:ブレグジット EU離脱)』を見る。

・アメリカのIT産業と工業産業 ラストベルト(Rust Belt:錆びついた工業地帯)の貧困化について考える

第8回

【英米文化 英米社会におけるメディア】

・英米社会における新聞メディア(高級紙(quality

paper)とタブロイド紙(tabloid paper)、全国紙(national

paper)と地方紙(local paper))

・英米社会における雑誌広告(magazine

advertising)と商業放送広告(CM:commercial message)

映画『The Post(邦題:ペンタゴン・ペーパーズ

最高機密文書)』を見る。

第9回

【英語 言語使用編(1)メディアディスコース(media

discourse)】

・言語とジェンダーの関係に迫る(1) 言語使用の中で構築される「女らしさ」「男らしさ」について考える

男性用剃刀GilletteのCMを取り上げる。

P&G生理用品「オールウェイズ(Always)」CMキャンペーンを

取り上げる。

第10回

【英語 言語使用編(2)話し言葉のディスコース (spoken discourse)】

・言語とジェンダーの関係に迫る(2) 女性・男性は生得的に「女性らしい」「男性らしい」話し方をするのか? 「女性らしい」「男性らしい」話し方を身に付けるのか?

アメリカの男子大学生の学生会(fraternity)において、男子大学生が強く男らしいアイデンティティを構築している事例を取り上げる。

第11回

【英語 意味編】

・英語の“rice”と日本語の「米」
・時代の変化に伴う“call”の意味変化etc.

第12回

【英語 文法編】

・副詞only (“Only Jack saw a lion.”と“Jack only saw a lion.”が表す意味の違いは何?)
・可算名詞と不可算名詞 (“I ate a chicken.”と“I ate chicken.”が表す意味の違いは何?)
・「行為」の注目する言語と「結果」に注目する言語etc.

第13回

【英語 形態編】

・派生(derivation)と複合(compounding)
・複合語(合成語)と名詞句の違い “He is a woman doctor.”はどういう意味か?

第14回

【英語 音声・音韻編】

・標準アメリカ英語と標準イギリス英語
映画『The Devil Wears

Prada(邦題:ブラダを着た悪魔)』を見る。

・AAVE(African American Vernacular English: アフリカ系アメリカ人の日常英語)
・標準イギリス英語(容認発音: RP(Received Pronunciation))とコックニー
映画『My Fair Lady(邦題:マイフェアレディ)』を見る。

第15回

【英語 歴史編】

・古英語(Old English)、中英語(Middle English)、近代英語(Modern English)、現代英語(Present English)
・音声・音韻上の変化、形態上の変化、文法上の変化

教科書	適宜プリントを配布する。
参考書	書名: 『Language Myths』 著者: Laurie Bauer & Peter Trudgill 出版社: Penguin Books 書名: 『The English Language: A Guided Tour of the Language (second edition)』 著者: David Crystal 出版社: Penguin Books 書名: 『English: One Language, Different Cultures』 著者: Eddie Ronowicz & Colin Yallop (eds.) 出版社: Bloomsbury 書名: 『概説 社会言語学』 著者: 岩田祐子・重光由加・村田泰美 出版社: ひつじ書房 書名: 『World Englishes 世界の英語への招待』 著者: 田中春美・田中幸子 出版社: 昭和堂